

宝のえにしに平八幡

(市内にある指定文化財を紹介します)



あらや はちまんじんじゃわにぐち 荒屋八幡神社鰐口

所在地：荒屋新町152番地1
寸法：直径17 $\frac{1}{2}$ 寸(铸銅製)
指定年月日：平成2年5月25日(旧安代町指定)

鰐口とは、仏堂の正面軒先につり下げられた仏具の一種です。神社の社殿で使われることもあります。国内最古の鰐口は、正応6年(1293)銘をもつ宮城県柴田郡大河原町の大高山神社のもので、

金属製梵音具の一種で、铸銅や铸鉄製のものも多く、鐘鼓を二つ合わせた形状で、鈴を扁平にしたような形をしています。上部に上からつるすための耳状の取手が左右にあるほか、下側半分の縁に沿って細い開口部と金の緒と呼ばれる布施があり、これで鼓面を打ち誓願成就を祈念しました。鼓面中央は撞座と呼ばれ圏線によって内側から撞座区、内区、外区に区分されます。

荒屋八幡神社の鰐口の外区には、「奉掛八幡大菩薩御宝前 成田氏安之尉生年十二歳敬白」と享保十九年(1734)の銘が刻まれています。奉納したものと考えられますが、由来などの詳細は不明です。

《参考文献》安代の自然と文化(岩手県立博物館1987年)、国史大辞典

【広告】この広告は、広告主の責任において市が掲載しているものです。広告の内容について市が推奨などをするものではありません。

企業広告スペース

※広報はちまんたい3月3日号(No.123)の印刷経費は1部47.25円(税込み)です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載【本号】については、㈱岩手広告社(☎019-623-3777)まで。

